

農村景観は、農山村の眺めであり、遠目に眺めれば、山並み、山麓に広がる農地、山の端や農地の広がりの中にある集落、樹林などの要素で構成されています。

それぞれの対象に近づけば、農地の形状、農作物の種類、家屋の形状、庭木や生垣、路傍やあぜの草花、道祖神、火の見櫓など細かな要素までとらえられます。

また、農地を耕す人々の姿や辺りを飛び交う鳥や虫、風にそよぐ草木なども農村景観の視覚対象となります。

加えて、空気、鳥のさえずりや虫の音、土のにおい、川のせせらぎ、郷土料理の味わいなどその場に身を置いて五感で感じられる要素や、伝統的な祭りや風習などの歴史的・文化的な要素も農村景観のよさを生み出しており、こうした要素も含めて、本方針では、幅広く農村景観をとらえています。

距離や広がりによる見え方

① 距離による見え方（奥行き感）

<近景>

近景とは近距離の眺めのことであり、農地、建築物、道路、植栽、石垣などの外観や、人の動きや表情まで確認できるレベルで、農地は農作物の種類、建築物は建材や屋根の色・形、道路は幅員や舗装、植栽は樹種などまで知覚されます。

<中景>

中景とは遠景と近景の中間の眺めのことであり、農山村内にある複数の景観要素がまとまって見えるレベルで、そのまとまりの中にある個々の景観要素まである程度判別でき、建築物や樹木の色彩の違いなども知覚されます。

<遠景>

遠景とは遠方の眺めのことであり、山と空は一体の景観として認識され、建築物や樹木など細かな景観要素まで個々には判別できないレベルで、集落や市街地、樹林地などまとまりとして知覚されます。

農村景観においては、これら近景、中景、遠景がバランスよく重なり合い、空間の奥行き感や伸びやかさを感じることができます。

② 広がりによる見え方

一つの地点から地域全体を見渡せるように広角で見た景観は、いわゆるパノラマと呼ばれています。このパノラマで見た水平方向の広がりも農村景観の魅力の一つであり、空間の開放感や伸びやかさを感じることができます。



お問合せ先

長野県 建設部 都市・まちづくり課
〒380-8570 長野市大字南長野字幅下692-2
TEL : 026-235-7348 FAX : 026-252-7315
Eメール: toshi-machi@pref.nagano.lg.jp

長野県農村景観育成方針の全文はインターネットでご覧いただけます。
アドレス <http://www.pref.nagano.lg.jp/toshikei/kurashi/sumai/kekan/hoshin.html>

長野県農村景観育成方針

「世界に誇る信州・ふるさと風景づくり」

優れた自然環境の中に、農林業の生産活動や人々の生活、地域固有の歴史や文化が調和した長野県の農村景観は、地域それぞれに特色があり、信州ならではの魅力に満ちあふれています。県では、この美しく豊かな農村景観を次世代に継承していくために、長野県農村景観育成方針を定めました。

信州の農村景観の魅力

○地形が生み出す変化に富んだ風景の魅力

- ・山並みが望める雄大さ・奥行き感
- ・大地を流れる河川が生み出す豊かさ・清涼感
- ・起伏に富んだ地形によってもたらされる立体性



○生産や生活の営みがつくり出す風景の魅力

- ・農業生産を支える施設
- ・四季折々の季節感を醸し出す農地
- ・農作業に励む人々の姿
- ・農山村らしさを感じさせる集落
- ・里山や屋敷林など生活と共にあるみどり
- ・道祖神など人々の心の拠り所
- ・伝統的な祭り・年中行事・風習



○音で感じる風景（サウンドスケープ：音風景）の魅力



○多様な生き物が見られる風景の魅力



○体験を通して味わえる風景の魅力



○食べられるものが見える風景（エディブル ランドスケープ）

- ・大地を覆う農作物がつくり出す多様な景色
- ・信州ならではの食を生み出す光景
- ・郷土料理などを味わえる雰囲気

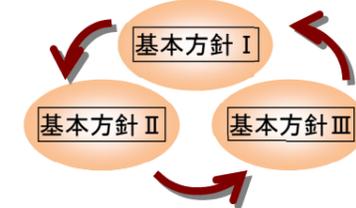


農村景観を守り育てるために

美しく豊かな本県の農村景観を守り育てていくため、3つの基本方針を定めました。

これらの基本方針は相互に関連するものであり、基本方針の相互間に好循環を築くことを、農村景観育成方針の目標としています。

農村景観を守り育てていくためには、県民の皆様、農林業に携わる皆様、事業者の皆様、市町村及び県が目標を共有し、基本方針に沿った具体的な取り組みを協働で進める県民運動として展開していく必要があります。



基本方針

基本方針Ⅰ 農村景観の基盤である農林業を元気で持続させる
農村景観の保全育成において、健全な農林業の発展は必要不可欠です。持続可能な農林業の実現を図り、多くの人が安らぎとゆとりを感じる美しい農山村を創造していきます。

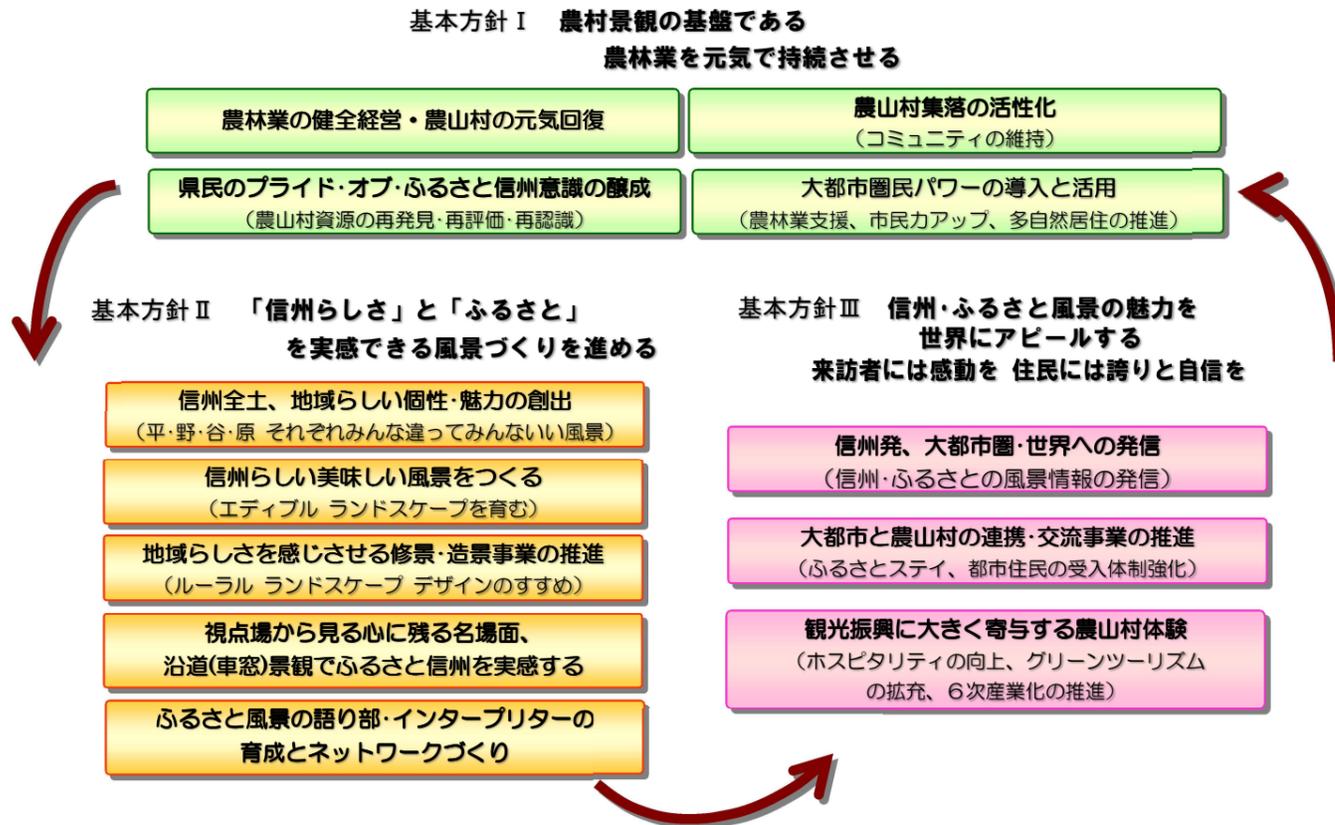
基本方針Ⅱ 「信州らしさ」と「ふるさと」を実感できる風景づくりを進める
地域の気候風土により育まれた多彩な風景の魅力を地域住民が再発見・再認識し、内外の人々がその魅力を味わえるよう、さらに磨き上げ、その活用につなげていきます。

基本方針Ⅲ 信州・ふるさと風景の魅力を世界にアピールする 来訪者には感動を 住民には誇りと自信を
信州・ふるさと風景の魅力を大都市圏などに発信するとともに、都市と農山村との連携を深め、農山村体験などを通じた交流を進めていきます。これにより、来訪者には感動を、地域住民には誇りと自信を与えるとともに、新たな経済活動によって、地域を元気にし、農村景観の基盤である農林業の持続的な発展につなげていきます。

保全育成の視点
大都市にはない信州の魅力の活用
地域らしさの尊重
田舎にしかない本物性へのこだわり

美しく豊かな信州の農村景観を創り育て継承する県民運動

基本方針ごとの取り組みは、次のとおりです。



農村景観の保全育成を進めるそれぞれの役割

● 県民の皆様の役割

自らの地域の農村景観の特徴(魅力)を理解するよう努めるとともに、地域住民間でその意識を共有するよう努めるものとします。

● 農林業に携わる皆様の役割

農地や森林が県土の美しく豊かな農村景観の基盤となっていること、農林業の営みそのものが農村景観を形成し「ふるさと景観」となっていることを認識し、それらの景観が維持されるよう努めるものとします。

● 事業者の皆様への役割

事業者は県や市町村の農村景観保全育成施策のほか、地域で行われる農村景観の保全育成活動に積極的に協力するものとします。

長野県景観育成計画(平成18年4月1日施行)では、景観育成に関して、「県民」、「土地所有者等」、「事業者」、「設計者、施工業者等」及び「県及び市町村」のそれぞれの役割を定めています。農村景観育成方針では、「農林業に携わる方々」の役割を特記したほか、「県民」、「事業者」及び「県及び市町村」の新たな役割を追加しました。

● 県及び市町村の役割

● 市町村及び県は、農村景観の保全育成に対する住民の意識の高揚に努めるものとします。

● 市町村は、住民等による農村景観の保全育成に資する取り組みの支援に努めるものとします。

● 県は、当該支援を行う市町村に対して必要な支援を行うものとします。

● 市町村は、「世界に誇る信州・ふるさと風景づくり」の3つの基本方針を踏まえて、周辺自治体との連携を図りながら、農村景観の保全育成のために必要な施策を実施するものとします。

● 県は、善光寺平、松本平など市町村の区域を超える農村景観の保全育成について、関係する市町村間の連携を積極的に図るとともに、広域的な農村景観の保全育成のために必要な施策を実施するものとします。

● 県及び市町村は、「世界に誇る信州・ふるさと風景づくり」の3つの基本方針の流れが循環するよう調整を図るものとします。

● 県及び市町村は、県内外及び国外に向けて信州の農村景観の魅力を発信していくものとします。

「信州らしさ」と「ふるさと」を実感できる風景づくりのイメージ

① 信州全土、地域らしい個性・魅力の創出

善光寺平、松本平、佐久平、伊那谷、木曾谷など、地域の呼び名にも個性があります。地形によって多様な風景のあることが本県の農村景観の魅力です。地域の景観の特長を理解し、開発行為を行う際には、その魅力を損なわない配慮が必要です。

④ 視点場から見る心に残る名場面、沿道(車窓)景観でふるさと信州を実感する

風景の「奥行き感」と「パノラマ感」が感じられる場所を視点場(ビューポイント)にすると、地域の方々も来訪者も、ふるさとの風景を実感できます。

風景は見るものであると同時に、見られるものです。「風景は見られるもの」という意識のもとに、土地や建物の管理等を行う必要があります。

② 信州らしい美味しい風景をつくる (エディブル ランドスケープを育む)

食べられるものが見える風景を「エディブル ランドスケープ」といいます。

農作物を見るだけでなく、農産物やその加工品を購入することができたり、その農産物を用いた料理を食べることができると、来訪者にとって農村景観の魅力が高まります。

⑤ ふるさと風景の語り部・インタープリターの育成とネットワークづくり

来訪者は、眺めの対象の歴史や成り立ちを知ったとき、その風景をより深く味わうことができます。

ふるさとの景観の魅力を伝えるためには、地域の歴史や文化を知ることが大切です。



③ 地域らしさを感じさせる修景・造景事業の推進 (ルーラル ランドスケープ デザインのすすめ)

石や木など地場の自然材料を用いたヒューマンスケールの造形や技術は今後も大切にしていきたい農村の景観要素です。

また、新たな行為を行うときは、「残したい既存の景観要素」との調和に配慮することが大切です。

【ルーラル ランドスケープ デザイン】

直訳すると「田舎らしい風景づくり」のことで、地域の自然素材や地形を生かした、ヒューマンスケールの風景づくりをいいます。

【ヒューマンスケール】

人間の手足や力に見合った空間の規模や物の大きさ(身体尺度)のことをいいます。

【インタープリター】

直訳では「通訳者」を意味しますが、ここでは地域の自然や文化、歴史などの背景を読み解き、伝える活動を行う人を総称しています。

